

JCPN ニュースレター

JCPN NEWSLETTER

2024
Easter



● JCPN 加盟教会

- ・日本インターナショナルバプテスト教会（オレゴン州ポートランド）
- ・ユージーン日本語バプテスト教会（オレゴン州ユージーン）
- ・日本インターナショナルバプテスト教会（ワシントン州タコマ、ベルビュー）
- ・日本インターナショナルバプテスト教会（アリゾナ州フェニックス）
- ・リンウッド日本人ファミリー教会（ワシントン州リンウッド）
- ・ゴスペルしるあむ教会（カリフォルニア州パサデナ）
- ・パロマ日本人バプテスト教会（カリフォルニア州エスコンディード）
- ・日本ホープマウンテンファミリー教会（コロラド州デンバー）
- ・パールシティ第一バプテスト教会日本語部（ハワイ州パールシティ）
- ・日本インターナショナルハーベスト教会（ミズーリ州セントルイス）
- ・オーランド日本語バプテスト教会（フロリダ州オーランド）
- ・ピッツバーグ国際日本語教会（ペンシルベニア州ピッツバーグ）
- ・日本恵みインターナショナル教会（テキサス州サンアントニオ）
- ・サンホゼバプテスト教会（カリフォルニア州サンホゼ）
- ・やすらぎキリスト教会（カリフォルニア州ガーデナー）
- ・光シティ教会（ミシガン州デトロイト）
- ・バンクーバー日系人聖書教会（カナダ・バンクーバー）
- ・ゆいまーる石川キリスト教会（日本・沖縄）
- ・サンディエゴ希望教会（カリフォルニア州サンディエゴ）



巻頭言

ヨコイマイク

先日のメンズ・バイブルスタディで、詩編とイエス様の関連の深さについて学び、改めて感動させられた。旧約聖書は、イエス様を指し示す証言であっても、詩編との結びつきについて、私はあまり意識したことがなかったので、とても良い学びだった。

イエス様とほぼ同時代、ローマ帝国初代皇帝がアウグスト。最近の発掘で、たった2日間のベスビウス大噴火で全滅した町、イタリア南西部ポンペイの北側に、アウグストの別荘だったのではないかと考えられる別荘が、東大チームによって、紹介された。この別荘は、アウグストの「終の棲家」だったのではないかとともに言われている。

この皇帝が世界に残した影響は計り知れない。ローマ帝国は彼から始まり、1千年以上にわたり、世界中に、その影響を与えた。遠く日本にも宣教師が送られてくるほどである。この皇帝とイエス様は、場所は異なれど、同じ時代を生きただが、ただ、一方は、ローマに、イエス様はカナンのガリラヤ地方だ。二人は互いが会うことはなかったが、イエス様の世界中への影響は、皇帝カエサルよりもはるかに大きなことだった。

イエス様にとって、「終の棲家」となったのが、エルサレムの丘のアリマタヤ所有の新しい墓だったが、イエス様が死なれて、3日目によみがえったゆえに、彼の墓はもはや空となった。今年、3月31日に祝ったイースターだ。私は個人的には、イースター（イエス様はいいスターだ）とは言わず、イエス・キリストご復活記念日と呼びたい。そのほうが、未信者の方々には、理解しやすいかと思う。

「イエスはトマスに言われた。『わたしを見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。』」ヨハネ20：29

イエス様が最初にイエス様が復活され、10名の弟子たちの前に現れた時、トマスだけは、その場にいなかったのだから、彼は信じなかった。しかし、1週間後、イエス様は、そのトマスに現れたのだ。この1週間、トマスの心の葛藤は、どんなだったのだろうか？10人の弟子たちを疑ったか。ねたんだのか。

私たちにはわからない。しかし、2千年後、現在、私たちは、イエス様の復活の体を見たことはないが、復活を信じている。イエス様の復活がなければ、信者は皆嘘つきであり、哀れな者だ。しかし、今、信じているのは、イエス様が約束の聖霊様を、私たちに送り続けて下さるゆえなのだ。

聖書の約束は、聖霊降臨は、決して物語でなく、力ある信仰へのかけがえないご人格の現れなのだ。これは主の復活を伝え始めた人々によって、世界中が変えられてきた事実だ。このお方は、今も生きておられる、世界中で最も影響力のあるお方だ。



「みなさん、JCPNへのお祈りとご支援をありがとうございます！」

昨年夏、アーサー牧師をお招きして伝道集会を行いました。直前のオレゴン修養会で多くの救いが起こったので期待しました。誰も救われませんでした。失望の中で「フェニックスでも修養会を！」という志が与えられました。同時に新年テーマとして「ACTS」という言葉が与えられ、信仰をACTSしておられるケンジ牧師が多忙な中で講師役を引き受けて下さいました。

今年は「ACTS：聖霊の働き、伝道の働き」のテーマで始まり、年明けに初の修養会を行いました。リーダーたちが主の前で休めるように教会で行い、食事も簡単にしました。その3日間でリーダーの家族が救われるという奇跡が起こりました。その後、私は癌闘病中の母の看病のために帰国しましたが、信徒リーダーたちの導きで年初21日間断食祈禱が行われました。その時「今まで毎日のデポーションは強調されてきましたが、お互いに心を砕いて教会や宣教のために祈り合う事が少なかったのではないか？」という思いが教会に起こされ、毎週の祈り会が始まりました。既存の家庭集会でも、学びの後の祈りが強調されるようになりました。

今までもインターネットを使った祈り会は行ってきましたが、実際に集まって心を注いで祈る事が教会を変えました。アリゾナ州は日語族が離散して住んでいるため、高速道路を1時間ドライブして集まる必要があります。その犠牲を払っても一緒に祈る中で「主の波」が来ました：長年の課題であった学生伝道が自然発生的に始まりました。空席になりそうな奉仕にふさわしい人を起こして下さいました。中高生リーダーはまだ与えられていませんが、主が人々の心に働きかけて自発的に若者を弟子訓練する方々が起こされました・・・そうした事が、バラバラで起こるのではなく主にあって一致して起こっています。まさに教会の頭は牧師ではなく、イエス様であるという事を実感させられました。その上、オマケとして自発的にボーイスカウト達が来て自費(!)で教会の外壁を新品に塗り替えてくれました。

また来年に向けて、JCPNカンファレンス参加をJIBCのリーダー訓練の一環とすることを教会が決断しました。フェニックスは人の移動が多いのですが、こうした形でJCPNのDNAを持った人々が草の根的に育てられ、引越先でも教会開拓の一端を担える方が増えてゆくように教会自らが導かれたことを主に感謝します。



ゆいまーる石川キリスト教会 沖縄県うるま市石川開拓伝道

「2023年10月末、沖縄県うるま市石川に移住し教会開拓がはじまりました。日本の毎週礼拝出席するクリスチャンは1%とされている中、沖縄は4%のクリスチャン人口があると聞きましたが、ある沖縄の牧師は本土と同じ1%と言っていました。沖縄は日本で一番賃金が安く、離婚率も非常に高いという事でした。それを聞いた私達夫婦は沖縄で新しくJCPNの経験を活かし沖縄で福音を伝えたいという思いが起こされました。



対象者はもちろんすべての人たちですが、特にシングルマザーと子供たちです。しかし、実際に沖縄に来てみると対象のシングルマザーと出会うというのは非常に難しく、また、子供たちは、学校が終わると放課後の時間に小学生を受け入れる学童保育の施設にいきますので、公園や家の近くで遊んでいる子供たちは殆ど見かけません。日本で子育てをした経験が無いので、日本の事情は良くわかりませんが、人と会って親しくなるという事が非常に難しい事がわかりました。

子どもたちにはたまに近所で遊んでいる小学校の低学年の子供に声を掛け、去年は子供（1年生から4年生まで）10人と大人5人で子供クリスマス会を家でする事が出来ました。そんな中でも、レストランで出会った家族と親交を持つ事が出来ましたが、神様は信じないとはっきり言われショックを受けた事もありましたが、クリスマス会にも参加されて現在でも交わりを続けています。

沖縄にはユタという古くからの民間霊媒師がおり、霊的問題や生活の中の問題点のアドバイスし解決するという風習があります。現在でも病気になったら、まずユタのところに行って拝んでもらい、それでも治らないと医者に行くという習慣が残っているとの事です。

現在は医療生協という団体の石川事務所をお借りして、毎週主日礼拝をしています。参加者はアメリカ人のご主人と日本人の奥さんと二人の子供たちと私達夫婦6人です。

伝道は牧師夫婦だけでは出来ないという事を痛切に感じています。沖縄の開拓では、誰も知人のいない地に来て、イエス様を知らない人に福音を伝えようと聖書の学びに誘っても、興味の無い人は、学びに参加しません。信仰を持つまでにはとても時間がかかると感じました。

北米では日本の教会が少ないために、クリスチャンが集まって聖書の学びや交わりをしているところがあり、JCPNではそのような方々に声を掛けて、教会開拓がはじまります。開拓メンバーの友人等誘いで教会に導かれ信仰を持つ人が起こされますが、未だそこまで行っていません。クリスチャンは、主日礼拝を守り聖書を常に読むのが当たりまえですが、イエス様を信じたいと思うまでは、学びや祈禱会に参加する事や個人の伝道する事までは期待できません。

沖縄には各地に教会があるために、主日礼拝を守っているクリスチャンはおりますが北米のようにクリスチャンだけで学び等をしているのは非常に少ないようです。

また、牧師先生のいない教会もあるようで、そのような教会は過去の礼拝メッセージをメンバー同士で聞いて礼拝を守っている教会もあるようです。

そんな中、昨年8月に始まった時に礼拝に参加しますと言っていた未信者の人が、連絡は頻繁に来るのですが、いつも欠席していましたが、ついに先日礼拝に参加しました。仕事の事でいろいろ困難があり一人で悩んでいたとの事で、教会に足が向かなかったようです。精神的な悩みがありますので少しずつ交わり重ね、福音を伝えたいと思っています。

主の教会は立ち上がりましたが、まだまだ時間が掛かりそうです。一步一步主が導いて下っている事が感じられます。今の私たちの願いは、教会の礼拝の出席者が増える事はもちろんですが、一緒に福音を伝える事のできる同労者が与えられる事です。

私たち夫婦は高齢者でシングルマザーに会うチャンスが殆どありません。子供たちに出会うのは近所の子供と時々行われる、小学校の授業参観に行く事です。授業参観が終わった後は道で会ったりすると声を掛けてくれます。

私たちの祈りは、同労者が与えられる事、シングルマザーや子供たちにもっと出会える事そして礼拝を持つ場所が与えられる事です。お祈りをして頂ければ感謝です。

主に感謝して。

2024年4月20日 ゆいまーる石川キリスト教会 鈴木 ケン



JAPANESE HOPE MOUNTAIN FAMILY CHURCH / 日本ホープマウンテンファミリー教会 森要一

2022年12月より、宣教団体 World Venture の建物を借りて礼拝を行なっています。毎週日曜に一日中、建物を自由に使わせてもらい、本当に感謝しています。これにより、礼拝後のフェローシップが自由にできるのはもちろんですが、昨年からは礼拝前に聖書のみ言葉を読んで祈る時を始めました。礼拝前にその日に奉仕がない人が子供から大人まで自由に参加しています。み言葉を読み、受けたことを自由に分かち合い、祈ります。そうして主に整えられて礼拝の時を持っています。また、機材も片付ける必要がなく、人手と負担と機材の痛みも減り本当に感謝しています。



コロナ期間から始まった、主日礼拝のライブ配信も続けており、普段教会に来ることができない方々へ福音を宣べ伝え続けています。また、中高生グループやヤングアダルトの活動もさらに活動的になって、教会の内から外に出て活動することも増えてきています。

7月の独立記念日のBBQや12月には親睦を深めるファミリークリスマス、1月の餅つきやイースター祝会も教会でできること感謝です。

また、昨年2月には大学卒業後、コロラド州でインターンシップをしていた眞兄がバプテスマを受けました。彼は日本に帰国するまでの間、礼拝での賛美や通訳の奉仕をしてくれました。8月には、教会員の子どもの幼児祝福式も行われました。

9月には、私たちが突然のアクシデントの見舞われ、1か月以上教会にいけない状況になりました。しかし、教会員たちが中心になり、不断の祈りと献身的な奉仕で、一度も休むことなく主日礼拝を守り続けてくれました。

そして、10月の14周年記念礼拝には、ミシガン州デトロイトで教会開拓をされている馬越先生をお招きしました。また、12月末にカリフォルニア州で行われた、大学生中心のカンファレンスに10人が参加しました。このために教会もファンドレイズで彼らをサポートしました。カンファレンス終了後、礼拝の中での証しを通して恵みの分かち合いをしてもらいました。教会に来る顔触れは毎週変わります。しかし、神様は毎週違った人たちに変わらぬ愛を伝えるために私たちの教会を用いて下さっています。そして、皆様のお祈りとサポートにも支えられています。心より感謝いたします。

- 祈りの課題 -

地域の人たちへの宣教拡大
次世代を担う若者たちの霊的成長と宣教への送り出し
求道者の救い
教会にコミットメントする人の増加



ポートランドJIBC

ハレルヤ！いつもお祈りに覚えて頂きありがとうございます。うございます。

私たちJIBCポートランドは、2023年を一文字で表すと、「大」だった気がします。

まずは施設の拡「大」。駐車場スペース、礼拝堂ステージ、外のコンクリートエリアなどを広くしました。

宣教地域の拡「大」。ケニアからモーセ先生をお招きし、エチオピアの先生ともつながり、2024年にはケニアとエチオピア宣教へ踏み出す予定です。

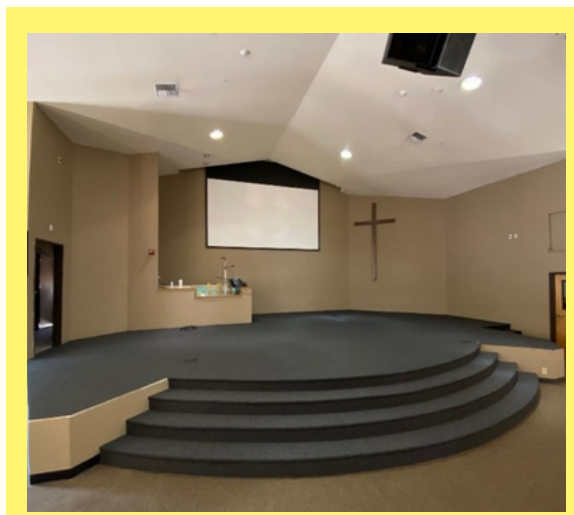
「大」きな変化は、こひつじ日本語幼稚園にも。20年近く主任として仕えてくださった姉妹が退任され、妻が新しい主任として引継ぎました。また、数年ぶりに理事会を新しいメンバーで再スタートしました。園児たちも15人とえられ、親御さんたちも数名、礼拝にも来られていることが感謝です。

また、高原剛一郎師、アーサーホーランド師、長沢崇史師など、知名度的に「大（ビッグ）」ネームの先生方を立て続けにお招きする機会が与えられ、恵みをたくさん受けました。

「大」きなグループも、新来者、受洗者ともに与えられました。留学生たちが毎週、20～40人集い、アーサー先生を通して一気に十数名の方が受洗されました。また、アーサー先生がメッセージされた主日礼拝では220名以上の参加者が与えられ、JIBCの記録が塗り替えられました。高原先生がJIBCでメッセージされたYouTube動画の視聴回数は1万回を超えました。そして「大」きな戦いもありました。僕と妻が個人的に親しかった友人であり、JIBCに献身的に奉仕してくださっていた姉妹が急に亡くなるという悲劇があり、教会全体にとって非常に辛い時期も通りました。

嬉しいことも、時には辛いことも、すべて主の御心によって私たちは歩ませていただいていることを信じながら、大きな祝福をたくさん得た2023年だったと思います。

この教会の牧師として素晴らしい方々と共に仕えさせて頂けていることに、いつも感謝しています。この報告を読んでもくださっている皆様のお祈りに心から感謝申し上げ、2023年の報告とさせていただきます。 ヨコイミチツグ



パールシティ第一バプテスト教会 日本語部

石渡敬子

「真珠湾を望む丘の上の教会」からアローハ！

私たちの教会のため、日頃からお祈りいただいていることに心から感謝申し上げます。

今年3月31日、私たちは、イエス・キリストの復活をお祝いしました。コロナ禍が始まって以来しばらく教会を離れていた方々の多くが、対面式の復活祭礼拝に戻ってこられました。子供たちは、新しくできた「円形劇場」でイエス様復活の子供メッセージを聞き、賛美を歌い、エッグハントも楽しむことができました。

そして、その次の日曜日、4月7日から、私たち日本語部では、サンデースクールの時間、リック・ウォレン牧師の『人生を導く5つの目的』(Purpose-driven Life)の学びを始めたのです。気がついてみれば、この日は、4月最初の日曜日だったのです。この日はじめてサンデースクールに参加した「若手」が3人おられ、励まされました。

4月、日本では新年度が始まります。新入生たちは、新しいクラスで、真新しい教科書を開き、新しい学びを始めます。同じように私たちも、「ピカピカの一年生」のような、フレッシュな気持ちでこの学びを始めています。

また、私たちの教会の近くには、プラザ@パールシティというシニア・ハウジングがあります。今年から、そこで月に一回の日本語バイブルスタディを開始しました。そこでも、『人生を導く5つの目的』から、学んでいます。

「シニア」も、「ジュニア」も、聖書に記された、主が私たちに対してお持ちの目的に従って歩みたいという願いは同じです。同じように主によって生かされている今日この日、主が私たちに対してお持ちのご目的が私たちを通してもなりますようにお祈りいただければ感謝です！

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます。」(コリントの信徒への手紙二 4:16)



ユージーン日本語バプテスト教会 (EJBC)

オレゴン州ユージーンからこんにちは。
無牧が続いていますが、主の恵みの中で毎週信徒礼拝を続けられています。主が続けてこの小さな群れを守ってくださっていることに心から感謝します。普段毎日曜日は、これまで同様、シームセン兄がメッセージをしています。また、数ヶ月に一度マイク横井先生が、さらにサンディエゴ希望教会の林先生も折あるごとに来てくださって、私たちにメッセージを取り次いでくださっています。



2023年、私たちの小さな教会に思いもかけず日本からビッグゲストをお招きすることができました。6月には高原剛一郎先生が、8月にはアーサー・ホーランド先生がお越しくださり、特別集会を持つことができました。主の計らいに驚かされます！どちらの集会も限られた人手で、集会が始まるまででんてこ舞いでしたが、主の守りと恵みの中で、祝福に満ちた集まりとなりました。大学生や地域の方々が予想以上に集まってくださり、イエス様を信じる者も、まだ信じていない人も熱く燃やされました。

また、JIBCで受洗した大学生のみちや兄がEJBCに集うようになり、賛美チームのリーダーの一人として奉仕してくれています。年末にはEquipper Conferenceに参加し、信仰の成長を見せてくれて、私たちの大きな励ましとなりました。大学生のためのバイブルスタディも始めています。ぜひ彼のためにお祈りください。

秋にはサンディエゴから新しい姉妹が引っ越して来られ、彼女のご家族も礼拝に参加して下さるようになりました。

11月には長年EJBCに集っておられたクラウド姉がワシントン州に引っ越されました。彼女は日本でご主人と宣教師として数十年働かれたあと、ユージーンに帰国されて学生ミニストリーに携われ、ご主人が召天されてからはリタイアされ、私たちの良き信仰の先輩としていつも笑顔で私たちを励ましてくださっていました。寂しくなりましたが、今もオンラインで一緒にお祈りできていることは恵みです。

専任牧師を迎えることは私たちの祈りではありますが、経済状況を鑑みると人間的には厳しい状況にあるようです。しかし、神にできないことはありません。神様の最善の時を期待しつつ、しばらくはこの状態で礼拝、伝道が続けていけるように祈っています。お祈りいただければ感謝です。



JIBC OF TACOMA

教会活動報告 2023年5月～2024年4月

2023年8月には、私達教会の家族修養会に25年ぶりにアーサー・ホーランド先生をお招きして、宣教に向けての励ましをいただき、素晴らしい祝福の時となりました。

新来者もバプテスマ者も与えられ、経済的にも祝され、教会は一致して祝福された1年でした。

しかし、教会を取り巻く環境は厳しく、パンデミックの前と後では、アメリカ社会は大きく変貌しました。教会の周りにはホームレスが増え、2022年の冬にはエアコン2基が盗難被害にあい、木のフェンスが何度も壊され、結局鉄製のフェンスに入れ替えました。社会には、反聖書的、反キリスト的、反ユダヤ的傾向が広がり、教会のユース達も大学に行くと信仰をなくします。ドル高、金利高、物価高のアメリカですが、庶民の生活は経済的に圧迫され、ラーメン一杯が\$20(3000円)、2 bedroomのアパートが\$2,500(¥375,000)、一番小さな家が\$500,000(¥70,000,000)でよほどの高収入でないと家は購入できません。でも私達は、そんな社会に対抗して、次のようなビジョンを持っています。

1. 教育館を新築して教室を増やし、信徒の子供達のホームスクーリングをサポートします
2. 子供達とユースに10-40windowsの国々への宣教旅行を勧め、アメリカ社会に対して強い霊的免疫力を身につけさせます
3. 自分達の中から、ビジョンを継承できる次の主任牧師を育て、リーダーシップを移管します。お祈り下さい。

竹内正臣



クロスオーバー日本人教会 (カナダ・カルガリー)

カナディアンロッキーの麓に位置したカルガリーからご挨拶させていただきます。

クロスオーバー日本人教会の創設者である谷口牧師退職後、バンフのグレース・ジャパニーズ・クリスチャンチャーチの榎実牧師が2年間兼牧で教会を助けてくださいました。去年8月にその契約が終わり、9月より無牧になりました。

メッセージは、時にインターネットから、時に教会員によって、臨機応変に対応しています。この時期は、私たち一人一人が主にあってもっともっと整えられていく時期だと思っています。そして、主が牧師を与えてくださる時には、牧師に頼る信徒ではなく、牧師をしっかりとサポートしていける信徒になることを目標にしています。

ダビデが神の箱を運んだ時に喜び踊ったように（Ⅱサムエル記6：14）、私たちも「喜びあふれた礼拝を捧げる」“Undignified Worship”が2024年のモットーです。



神様の波が来ている！ ～ リンウッド日本人ファミリー教会 ～

LJFC（リンウッド日本人ファミリー教会）の特徴の一つは「今年のビジョン」を掲げないことかもしれません。どんなに私たちがビジョンを掲げてそれが神様の御心でなければそれは起こらないし、そのビジョンに向かって進むことは神様の御心でないからです。LJFCではむしろ神様がなされていることを見極め、神様が起こされる「波」に乗っていくことを日頃心がけています。

ここ数年、そんな「波」が一つ、また一つ、押し寄せています。

コロナ後、祈り始めていたことがいくつかありました。

1. 世代交代：教会員の年齢（牧師も含めて）が50～60代になりつつあり、このままでは教会の将来はどうなってしまうのか、と言う思いから、次世代が与えられるよう祈り始めました。
2. 教会としての祈り：この祈りを毎週礼拝で、祈り会で祈り始めました。
 - ・ 地域に住んでいる日本人とその家族が来て救われるように
 - ・ 日本人学生が来て救われるように
 - ・ メンバーの信仰が成長し続けるように
 - ・ 教会の経済的必要を神様が満たしてくださるように

祈りながら、神様の波を待ちました。しばらく「待ち」の期間が続きました。そして神様が動かれました。2021～2023年にかけて30代前後のクリスチャンカップルが4組次々に送られて来たのです。あっという間に平均年齢が下がり、活気が生まれました。まさに、将来に向けての神様の「波」でした。この中から将来のリーダーが生まれてくれることを今、祈っています。

次の波は今年の3～4月にかけてやってきました。未信者のシニアの方が一人、そして未信者の若いカップルが一組、毎週の礼拝に来られるようになったのです。特に何かイベントを行ったわけではありません。もちろんこの背後に教会員の祈りがあり、神様が用いられた人間関係がありますが、神様が動かれ、これらの人々を送ってくださいました。更に今、「ベビーラッシュ」の波も来ています。去年一人赤ちゃんが生まれ、今年一人生まれ、もうすぐもう一人生まれる予定です。長い間子供がいなくて日曜学校もなかったLJFCに子供ミニストリーの波も訪れる気配です。

これらの「波」はLJFCにとって大きな喜びとなり、新しい活気が生まれています。そんな中でLJFCがこの「波」に乗り遅れないように。与えられた若い世代を導き、未信者の人たちに、そして更なる新しい世代にしっかりとイエス様を伝えていくことができるようお祈りください。

金田豪



ひかりシティ教会

デトロイトでの教会開拓の報告をさせていただきます。光シティのイースター礼拝には40名以上の大人とたくさんの子供たちが来てくれました。その中にはアメリカに来てからまだ一週間も経っていない未信者の家族もいて、車もまだない中でわざわざタクシー（Uber）に乗って来ていただきました。これから新しい生活を助けてあげる過程で、イエス様の愛が伝わることを願っています。

去年の春に ESL（英語クラス）の働きを開始して、一年が経ちました。昨年は2-3人しか日本人が来てくれませんでした。今年の春季のクラスには20名近くの日本人が参加してくれています。少しずつ私たちの働きが地域の街々で広がっているということを実感しています。この働きを始めた際は、ESLを通して積極的に伝道しようと考えましたが、一方的に英語が話せなくて苦しんでいる多くの主婦の方を助けてあげようという姿勢に方向展開をしています。見返りを求めない人との接し方は、福音を伝える上で重要だと気が与えられています。

「意味のないことを敢えてやる」というのが私の中で一つのキーワードになっています。「あの人と会っても意味がない」ですとか、「このイベントをしても意味がない」と自分なりに理由をつけて、やる前から、何が可能か不可能かを決めつけてしまう傾向が私の中でありました。しかし、面倒臭いことを少し頑張ってみると、思っても見ない形で神様が働かれることがあります。例えば、ESLで野球観戦をしに行こうとあるリーダーが言いました。私は心の中で、「そんなことやっても、誰も興味示さないし、行けない人もたくさんいるだろうから、やらない方がましだ」と考えていました。しかし生徒に聞いてみたところ、家族含む40名以上の方が参加してくれて、野球観戦を通して、関係が深くなるチャンスが与えられました。過去の成功体験、失敗体験に縛られず、色々な新しいことを祈りながらやっていくことは、教会形成をする上で大切だということを実感しています。

妻のソニは本当に毎日多くの人と出会っています。日本人と会う目的で月曜日から木曜日まで4つのESLに参加しています。最近妻は少しホームシックになっていて、早くグリーンカードが発行されて、帰国できるようになることを祈っています（現在はビザの関係でアメリカを出ることができません）。麗歌は最近学校で一人のベストフレンドができました。アメリカ人の女の子で、光シティにも来てくれています。その子と仲良くなったおかげで、麗歌の英語が急速に伸びました。皆さんがいつもお祈りで支えてくださっていることが何よりの力です。感謝します！



馬越牧・ソニ・麗歌

やすらぎキリスト教会



やすらぎキリスト教会は、カルフォルニア州ロサンゼルス郡ガーデナ市中心部に位置する場所にあります。教会の近くには、レドンドビーチや日本食レストラン、日系の幼稚園、補習校などがあり日本人が住むには、便利な場所となっています。

やすらぎキリスト教会は、2011年に武田秀文牧師によってトーランス市で開拓され1月16日に第一回目の礼拝を行いました。そして、パーキング事情などで困っていた時、2013年に現在の場所が与えられ移転することができ、安心して礼拝ができるようになりました。また、以前より子どもたちにイエス様のことを教える種蒔きができる場所として幼稚園の運営という思いが武田牧師に与えられており、いろいろな問題にぶつかりながらも2013年9月に教会付属の幼稚園が無事開園することができました。

園児たちも少しずつ増えていき
現在では 60 名近い園児たちが
日本語の勉強をしイエスの愛
に触れる毎日を送っております。
そんな幼稚園も神様の恵によ
って 10 周年を迎えることが
でき、伝導の場として用いら
れています。教会の方も、出
会いや別れを繰り返しながら
も、日本から 21 歳の若者を
司会者として送ってくださ
ったり、19 歳の賛美奉仕者
や 7 歳のドラマーという奉
仕者が与えられアットホーム
な環境の中、日々主に礼拝を
捧げています。



そして、武田牧師に与えられたもう一つのビジョンとしてやすらぎ福音館があげられます。誰でも気軽に訪れることができる場所、みんながやすらげる場所、いつでも集まれる場所として作られました。2024 年 3 月に正式に開設することができ、記念すべき第一回家庭礼拝では杉田牧師が来てくださり、大変熱のこもった熱いメッセージを受け取ることができました。今後は、聖楽会（聖書を楽しむ会）という名前で聖書の学びをしたり、祈祷会、家庭礼拝、交わりの場としてもっと福音館が用いられていく予定です。

そんな、やすらぎキリスト教会ですが今後も、教会はもちろんのこと幼稚園、福音館の上に沢山の恵みがあり、福音伝道を行っていきたくて祈っております。今度はどんな福音伝道のビジョンが与えられるか楽しみです。祈って進んでいきたくて思います。

サンディエゴ希望教会

林雄司、奈月

礼拝が始まりました！

昨年8月にサンディエゴの地に移り、はや8ヶ月が経ちました。これまでに礼拝をさせていただけるスポンサーチャーチが見つかり、一時的ですが教会近くに住まいも与えられ、バイブルスタディーも始まり、すでに神様が多くの恵みを与えてくださいました。そして4月7日

(日)にサンディエゴ希望教会、第一回目の礼拝をささげることが出来ました。



本来なら教会のコアメンバーが与えられ、基盤が出来てからの開始という順序かもしれませんが。しかし今は、私たち家族だけでも公の礼拝を始めていくことによって、地域に教会の存在が知られていき、救いを必要としている人々に希望の福音が届くことを願ってこのようなスタートに導かれました。オープニング礼拝に参加しますとの連絡を数人からいただいていたので10人ほどの礼拝になると予想していましたが、当日は20人以上の方々が礼拝に参加してくださいました。奉仕者は私達家族3人だけのため、賛美や通訳、食事の準備やホスピタリティーも十分に出来なくて足りないところばかりでしたが、参加者の方の暖かい励ましによって主の恵みと愛に溢れた礼拝と交わりになりました。しばらくは少人数で試行錯誤しながらの礼拝になると思いますが、私たちのありのままの姿で、主の前に心から、霊とまことの礼拝を捧げたいと祈っています。正式なオープニングは9月を予定しています。

Webサイトが完成しました！

このオープニングに先立って、Webサイトが完成、公開されました。このサイトは以前、日本人ビジネス会で出会った方の会社に依頼しました。担当のYさんはまだクリスチャンではないものの、アメリカの教会に通っているとのことで、私たちの新しい教会開拓をととても応援してくださっています。サンディエゴに来てからこのビジネス会の集まりにはほぼ毎回出席しており、日本人コミュニティとの関係を作る貴重な機会となっています。この中には教会に興味を持っている方も数名おられます。この方々が教会につながり救いへと導かれることを祈り求めています。



祈祷課題

*新しい教会を共に築き上げていく思いを持ったコアメンバーが与えられるように。また教会礼拝者とメンバーが加えられるように。

*多くの日本人との出会いがあり、福音を伝えていくことができるように。日本人コミュニティとの関係を築いていくことができるように。

*開拓伝道に霊的な守りがあり、必要な費用や備品などが与えられるように。

日本インターナショナルハーベスト教会 (ミズーリ州セントルイス市)

生方義憲



いつもJCPNの諸教会をお祈りに覚えて下さりありがとうございます。
2023年秋から2024年春までのミニストリの近況を報告させていただきます。2023年秋の1番の喜びは二人のユースの子供がバプテスマを受けたことでした。この子たちはそれぞれ違う家族から来ていて、初めにお母さん達が救われ、今は、子供たちが一人一人救われ始めています。彼らのお父さんたちも教会に度々来るようになって来ました。また、11月には昨年につき、日本語補習校の秋の文化祭のためにおやつとして焼きたてのたい焼きを約160個提供する機会が与えられ、先生、子供達、家族のボランティアの方達にとっても喜んで頂きました。補習校はセントルイスで一番大きな日本人コミュニティなので、続けて関係を深め、福音を伝える機会が与えられるようにお祈りに覚えて下さると感謝です。12月10日には少し早いクリスマス特別礼拝を行い、今年も現地の日本人合唱グループがクリスマスキャロルを歌って下さり、彼らの友人や家族も来られ多くの人に福音を伝える機会が与えられました。

2024年は先ず、1月1日に元旦礼拝と正月のお祝いをしました。楽しい時であると共に、多くの方に福音を伝える機会となりました。また、今年の春は二人の特別講師をお呼びして、伝道集会・礼拝を持ちました。2月にはカンザスシティより、林ジョナサン先生を、そして4月にはケンタッキー州のルイビルから佐藤岩雄先生をお呼びしました。この地域では日本人の外部メッセンジャーを呼ぶ機会がなかなかないので、2回とも普段教会に来られない方達に主イエスの福音を伝える良い機会となりました。続けて、神様が私たちの教会を主の福音を宣べ伝え、主イエスの弟子を育てるために用いて下さるようにお祈り頂けましたら感謝です。

Japanese Megumi International Church of San Antonio サンアントニオ日本恵み国際教会

朝礼拝となって2年が経とうとしています。その間、人の流れもありましたが、この教会を選んで来て下さる方も少しずつ増えてきました。昨年は林先生、今年は生方先生をお招きして特別礼拝をしていただき、楽しく感謝な時を持たせていただきました。この一年は三人の方がバプテスマを受け、教会にとっても大きな喜びと祝福でした。教会でのバプテスマも感謝ですが、川でのバプテスマは恒例イベント？になっています。現在礼拝時間に制約があることはチャレンジではありますが、その中でも礼拝の充実を目指しています。ダンスチームを立ち上げ、賛美をしながらダンスする時間も持っています。主を喜ぶことは私たちの力ですから！また礼拝の中で短く教会学校の時間を持ち、みんなで子どもたちの成長を見ながら霊的に育てようとしています。礼拝の最後は賛美の中で握手しながら祝福しています。礼拝後のフェローシップは時に牧師館に場所を移し、軽食をとりながら行っています。それも祝福され、その中で信仰告白する方も与えられています。教会全体として聖書通読を行い、その中で教えられ導かれたことをシェアしつつ礼拝で語っています。主イエスの血を受けた血族として、そして同じ釜の飯である聖書を頂きながら一緒に成長していきたいと願っています。

小西健二

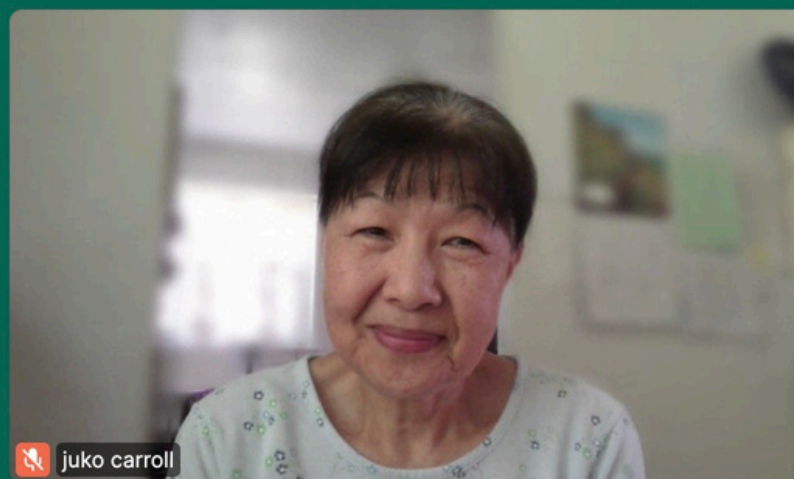


ピッツバーグ国際日本語教会

主の御名を賛美します。私は2023年4月に腎盂癌により右腎臓を摘出しましたが、現在はすっかりよくなっています。また、2023年9月に妻が働いているウィスコンシン州に引っ越しました。皆様のお祈りに感謝申し上げます。

ピッツバーグの日本語教会は現在オンラインで実施しており、たまにピッツバーグに行って対面で礼拝している状況です。信徒の方には迷惑をかけていますが、こじんまりとした中に主の臨在を感じながら祝福された礼拝を続けています。「私はあらゆるときに主をほめたたえる。私の口にはいつも主への賛美がある（詩篇34篇1節）」とダビデが言っているように、どこにいてもどんな状況にあっても主だけを賛美していきたいと思います。カンファレンスの祝福とJCPNの益々の発展を、お祈り申し上げます。

土橋稔史



ゴスペルしろあむ教会・パロマー日本語バプテスト教会 GSC(GOSPEL SILOAM CHURCH), PJBC(PALOMAR JAPANESE BAPTIST CHURCH)

稲富祐一郎

ハレルヤ！暖かい南カリフォルニアから主の愛を送ります。2024年は二つの教会とも、昨年末から続いた様々な試練の中からスタートしました。メンバーの引っ越し、教会や、信仰から離れていく青年たち、外部からの誹謗中傷による迫害などもあり、毎週が激動の渦の中に入られている感じでした。祈りの中でこういう時にこそ、後ろ向きにならず、さらに勝利の主を見つめながら進むべきだということを示され、マタイ11:12、ヨシュア1:9から「御国の祝福を奪い取っていく信仰の一步を踏み出そう」というテーマでスタートしました。主はとても真実で憐れみに満ちたお方で、私たちの決心と歩みを祝福してくださり、小さな主の御業が連続して起こり始めました。その中でも最も感謝なことは、GSC, PJBC両方とも、ノンクリスチャンの留学生たちが毎週集うように導いてくださり、彼らの存在が教会に新しい聖霊様の風を吹き込んでくれています。ノンクリスチャンでありながらも、毎週の主日の礼拝、交わり、2次会が楽しみで、課題などを週末に片付けて、主日に備えている姿が、ベテランクリスチャンたちに良い刺激を与えてくれています。嬉しいことに、先週（5月5日）に4名がバプテスマを受けました。留学生が受洗に導かれたのは、コロナ以降久しぶりのことだったので、喜びは格別でした。個人的には、4名の中に私の長女（祐子：15歳）が含まれていたのが、主の憐れみでした。彼らがこれからキリストの証人として様々な場所で用いられるよう



に祈って頂ければ幸いです。また、4月末に平松七海姉妹を日本に送り出すことができました。彼女はノンクリスチャンでアメリカに留学生としてきて、GSCにつながり、イエス様を受け入れバプテスマを受けました。今回、無事大学を卒業し、日本に帰国し就職します。本人も「帰国じゃなく、神様によって日本という宣教地に送り出される」という意識を持ってることを証してくれたことが何よりも感謝でした。私たちも久しぶりに「神様の塩」

を日本の地に送り出すことができ本当に嬉しかったです。これからも彼女が日本のリバイバルのために用いられるように祈ってください。またこれからもたくさんの留学生が救われ、日本の地に送り出すことができるように祈っていただければ幸いです。実際、コロナ以前と比べて、留学生の特徴は大きく変わりました。ほとんどが短期（3～6ヶ月）で、福音を必要としないような裕福な子たちが多いイメージです。できることは限られているかも知れませんが、少しでも福音の種を蒔くことが彼らの人生に大きな変化をもたらせると信じて継続していきたいと思います。

個人的には、3月に3週間ほど南米の4カ国を巡りながら宣教する時が与えられ感謝でした。特にパラグアイでは日系人たちの礼拝を導くチャンスが与えられ、若い子たちがイエス様に触れられているのを見て、各地で日本のリバイバルのために主の御業が起こっていることを目撃でき感謝でした。

祈りの課題

- 1) GSC, PJBCともに留学生ミニストリー（フライデー）が祝福されるように
- 2) 献身者、スタッフたちが霊的に祝福され整えられていくように
- 3) GSC, PJBCともに、さらに教会を愛しサポートする神の家族が増し加えられるように
- 4) 教会堂のため、健康のため、VISAのため、経済的な祝福のため、
- 5) 毎週の礼拝が主の臨在で満ち溢れるように



2023年1月～12月 献金報告

献金日	献金者ご芳名
1月29日	相模原福音キリスト教会様
2月26日	相模原福音キリスト教会様
3月14日	帯山聖書教会様
3月26日	広辺貞子様
3月 1日	相模原福音キリスト教会様
4月17日	鞭木由行様
4月19日	羽鳥頼和・路津子様
4月30日	相模原福音キリスト教会様
5月 1日	山本和美様
5月28日	相模原福音キリスト教会様
6月25日	相模原福音キリスト教会様
6月30日	帯山聖書教会様
7月 5日	森祐理様
7月12日	堀内正子様
7月30日	相模原福音キリスト教会様
8月27日	相模原福音キリスト教会様
9月24日	相模原福音キリスト教会様
9月26日	帯山聖書教会様
10月17日	羽鳥頼和・路津子様
10月29日	相模原福音キリスト教会様
11月26日	相模原福音キリスト教会様
12月26日	帯山聖書教会様
12月31日	相模原福音キリスト教会様

23件 合計428,451円

2024年1月～4月 献金報告

献金日	献金者ご芳名
1月20日	広辺貞子様
1月28日	相模原福音キリスト教会様
2月25日	相模原福音キリスト教会様
3月21日	帯山聖書教会様
3月31日	相模原福音キリスト教会様
4月28日	相模原福音キリスト教会様

6件 合計34,187円

皆様からの尊いおささげものを心より感謝申し上げます。

2024年5月

JCPM日本支部事務局一同

編集後記

コロナ後、主の祝福の中でJCPNの宣教活動が、大いなる前進を遂げていますことは主の恵みです。JCPNをご支援くださる皆様のお祈りによるものと心より感謝申し上げます。

わたしたちJCPNは、復活信仰に生き、主の十字架の贖いの恵みを感謝し、主の復活の新しい偉大なる栄光によって福音宣教にお仕えしております。

アメリカではデトロイトの光シティ教会に続いて、サンディエゴでの教会開拓に林牧師ご夫妻を送り出しました。そして日本においても沖縄のうるま市で鈴木牧師ご夫妻が教会を開拓されています。これらの新たな教会開拓も主ご自身が押し進めてくださると信じています。

これからもわたしたちJCPNは、主を畏れ敬いつつ、主が起こしてくださる新しいリバイバルの御業を待ち望み、霊的な闇の支配を打ち破り勝利し、日々前進してまいります。

今後共、JCPNが、アメリカ全土、そして日本に、新たな教会を開拓し、日本とアメリカのリバイバルの懸け橋となることができますようにお祈りとお支えをよろしくお願い致します。

本ニュースレターの送付先について、変更・追加のご要望がございましたら、大変お手数ですが、下記の日本支部事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、ニュースレターはEメールで配信することも可能です。ご希望の方は下記連絡先までご一報いただければ感謝でございます。

2024年5月

JCPN日本支部事務局

代表責任者 高木康俊

スタッフ一同

〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-31-10

蓮根バプテスト教会内

Eメール：hasune.b.c@gmail.com

(必要な時は電話03-3967-1798 蓮根教会スタッフまでお問い合わせください)

